



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



San'in Kaigan
UNESCO
Global Geopark

い ば
神話「因幡の白うさぎ」と砂丘の成長

は く と 白兔海岸コース



山陰海岸ジオパーク散策モデルコース

初版: 2013.3.28
最終更新日: 2018.12.21

白兔海岸は、神話「因幡の白うさぎ」で有名です。そして、東西16kmの鳥取砂丘の西の端でもあります。ここには、兎がいたとされる淤岐ノ島や、白兔神が祭られている白兔神社、さらに2ヵ所の国指定天然記念物など多くの見所があります。

神話の世界に思いをはせてジオを体感！

兎がいたとされる淤岐ノ島の北側と南側には波食棚が見られます。波食棚は干潮時に海面上にあらわれ、鯨（わにざめ）の背中のように見えます。兎がいたとされる島は諸説ありますが、神話と自然の景観を重ね合わせて眺めるとよいでしょう。



気多岬から見た淤岐ノ島



気多ノ前展望広場から見た海岸線

基本コース

スタート *時間は徒歩

- 道の駅神話の里白うさぎ
2分 約170m
- 不増不減の池(御手洗池)
1分 約20m
- 白兔神社
5分 約370m
- 宝篋印塔・五輪塔群
8分 約600m
- ハマナス自生南限地帯
1分 約100m
- 白兔礫層露頭
10分 約670m
- 恋 島
7分 約420m
- 気多岬東屋
- 気多ノ前展望台広場
9分 約600m
- 道の駅神話の里白うさぎ

総移動時間約50分
全行程約3.5km

山陰海岸ジオパーク
『小沢見海岸コース』があります

クイズ3

気多ノ前展望広場にある、ハートの穴の開いた箱の名前は何か。
(答えは裏面を見てね!)



クイズ1

白兔神社の本殿を支えている土台石(菊座石(きくざいし))には、菊の紋章が彫刻してありますが、その花弁はいくつでしょうか。
(答えは裏面を見てね!)

②不増不減の池(御手洗池)

③白兔神社

ニッポンハナダカバチ生息地(境内)

④宝篋印塔・五輪塔群

⑥白兔礫層露頭

⑤ハマナス自生南限地帯



ハマナスの花

クイズ2

ハマナスは何科の植物でしょうか。
(答えは裏面を見てね!)

- 凡例**
- トイレ
 - 交通安全確認
 - 基本コース
 - 駐車場
 - 食 事
 - 撮影スポット
 - 説明看板
 - 道 順
 - 田
 - 畑

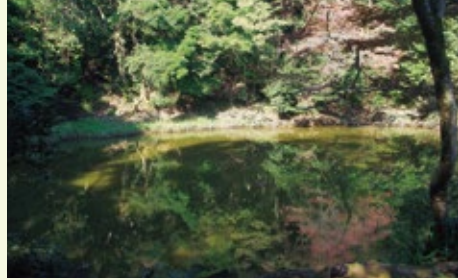
みどころいっぱい白兎海岸

①道の駅神話の里白うさぎ



目の前には神話「因幡の白兎」で有名な白兎海岸が広がります。2階からは直接歩道橋を渡ることができ、白兎海岸へ行くことができます。サーファーや海水浴客、白兎神社の参拝客などで賑わっています。
(問)0857-59-6700/8～22時/年中無休
(12/3～2/28は8時30分～22時)

②不増不減の池(御手洗池)



直径約30m、周囲約100m、深さ1.0mの淡水の小さな池ですが、大雨が降っても水位は上がり、また、日照りが続いても水位がほとんど下がることがないと言われている不思議な池で、江戸時代から「不増不減の池」と呼ばれています。また、「鮫(わにざめ)に皮をはがされた兎が身を洗った池」と伝えられています。

③白兎神社



創建については不明ですが、鹿野城主だった亀井茲矩によって再興され、江戸時代には「兎の宮」、「大兎大明神」、「白兎大明神」とも呼ばれていました。皮膚病に靈驗あらたかな神社として知られ、近年は大国主命と八上姫との縁を取りもったとして、縁結びの神様とされています。

ニッポンハナダカバチ生息地(白兎神社境内)



白兎神社の境内はきれいに管理された砂地ですが、ここにはニッポンハナダカバチという希少なハチがたくさん生息しています。本種は、海岸などの砂地に巣穴を掘る狩りバチで、全国的に絶滅危惧種となっています。活動時期の7月頃には境内の地面を飛び回る姿をみることができます。狩りをした他の昆虫を巣穴に運び込む様子もみられるかもしれません。攻撃性の強い危険なハチではありませんので、やさしく見守ってあげてください。

④宝篋印塔・五輪塔群



白兎海岸の背後にある「身干山」と呼ばれる砂丘から、昭和48年(1973)5月に砂採りの際に墓塔や供養塔として建てられた多数の五輪塔や宝篋印塔などが出土しました。年代が決定できる遺物であることから、砂丘の形成年代を明らかにすることができました。
(※ジオコラム2参照)

⑤ハマナス自生南限地帯



ハマナスはバラ科バラ属の落葉の低木です。寒い地方に生育する植物で、日本では北海道で多くみられます。鳥取県では、白兎海岸と大山町の海岸でみられ、いずれも自生南限地帯として国の天然記念物に指定されています。

⑥白兎礫層露頭



ここでみられる地層には、円い大きな石(礫)が数多く含まれています。このような地層を礫層と呼びます。礫の中には40cmもあるような大きな礫も含まれますが、このような礫はゆるやかな川の流れでは運ばれません。集中豪雨などにより発生する「土石流」という強い流れによって運ばれてきたと考えられています。

⑦恋島



砂浜に少しだけ顔を出した岩で、大国主命が八上姫を恋給うた場所といわれています。安政5年(1858)に地元の若い衆によって、一番高い神楽岩の上に石灯籠が建てられました。

⑧気多ノ前展望広場(愛称:白兎の丘)



気多岬の上にある展望広場からは、白兎海岸全体はもちろん、鳥取砂丘の海岸線、背後の山々を眺めることができます。

おすすめ:淤岐ノ島



淤岐ノ島は、約2,000万年前頃中新世の火山活動による火山灰や火山礫などが堆積してできた岩石(火砕岩)でできています。島は、東西に走る断層によってブロック状に分断されています。島の南北には波食棚が広がり、北側は「千畳敷」と呼ばれ、南側は飛び石状に連なっているため、「因幡の白うさぎ」に登場するワニの背になぞらえています。

ジオコラム①

神話「因幡の白うさぎ」

「因幡の白うさぎ」の話は、およそ1,300年前に編纂された「古事記」に書かれている神話です。大国主命の話の始まりに「稻羽之素菟(いなばのしろうさぎ)」として書かれています。「素菟」とは、「もとの姿にもどったウサギ」あるいは「裸のウサギ」という意味です。神話は次のような内容です。

「昔、一匹のウサギが淤岐ノ島から対岸の気多岬に渡ろうとして、海のワニをだまして上陸しようとした。そして、だましたことをワニに告げると、怒ったワニはウサギの皮をむいて赤裸にしてしまった。そこに八上姫に求婚するために通りかかった大国主命の兄神たちが、苦しんでいたウサギに「海の塩を浴びて、風に当たればよい」と教え、その通りにすると痛みが増してしまう。最後にやってきた大国主命が、「水門の真水で身を洗い、ガマの花粉を体に付けければよい」と教え、その通りにするとウサギは元の体に戻った。」
広く知られている話はここまでです。神話の舞台は諸説あり、「淤岐ノ島」は、沖合にある島、あるいは島根県の「隠岐島」という説もあります。



神話「因幡の白うさぎ」の石像

クイズの答え

- ①:28花卉 ②:バラ科
③:白兎のお告げ箱

ジオコラム②

身干山(白兎砂丘)の形成

白兎神社の南から南東にかけて「ウサギが身を干した」と言われる身干山(白兎砂丘)があります。昭和48年(1973)にこの砂丘の南端で砂採りが行われたときに、2層の黒い砂の層(クロスナ層)と大量の五輪石塔や宝篋印塔、古墳時代の土器、中世の磁器や古銭などが発見されました。クロスナ層は砂丘が植物に覆われていたことを示すもので、砂丘形成の休止期にあたります。そして、下位のクロスナ層の上からは弥生土器片、上位のクロスナ層の上からは須恵器や土師器と呼ばれる土器や古墳の石棺が発見されていることから、人々がクロスナ層の上を生活の場としていたことが想像できます。また、クロスナ層より上の砂丘層からは、中世の遺物や享保2年(1717)の石塔が発見されました。現在の地表面に立っている石塔は、江戸末期以降のものです。

このように、それぞれの砂丘層とその出土品から、砂丘は連続的に形成されたのではなく、休止期をおきながら形成期には短期間に一気に形成されていったことが考えられます。そして、砂丘の発達と休止にあわせて人々も生活の場を移し、その歴史が砂丘に刻まれているのです。

身干山(白兎砂丘)の柱状図と出土品

